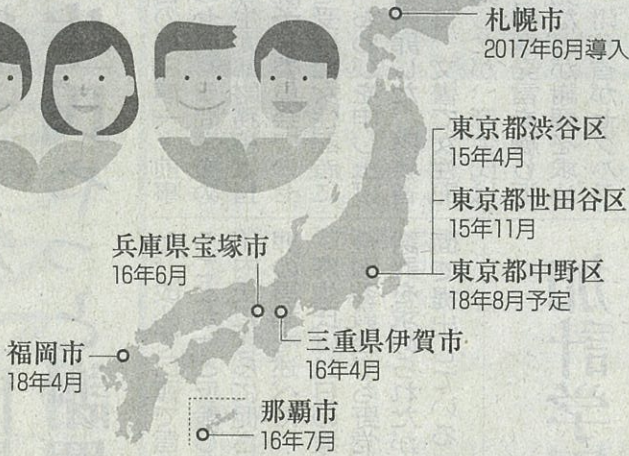
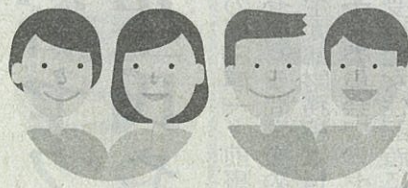


同性パートナーシップ制度を導入している地域



「法連合会は、「海外でも見たことがない」という。条例は、市民委員会での議論などを経て昨年12月に可決された。市が公表した骨子案は、アウティング禁止にまでは触れていなかったが、性的少数者から「カミングアウト(公表)を強制するようにも見てとれる」と意見が寄せられ、市側が内容を検討。「公表の可否は本人の権利で、公表されたくない人もいることを明示すべきだ」としてアウティング禁止の規定が加わった。

多様な性

「講演会や映画上映会」など。施策数が最も多かったのは神奈川県横須賀市で、支援団体と連携した相談窓口の開設など30の施策があった。

同性カップルに結婚に準じた関係などを認める「同性パートナーシップ」制度を導入しているのは、世田谷区、渋谷区、兵庫県宝塚市など七つだった。世田谷区や文京区では、性的少数者らへの不当な差別的取り扱いを禁じる条例も施行された。

国の法案は未成立

一方、国会では与野党が「理解増進」や「差別解消」の法案化の動きをみせるが未成立だ。

金沢大の谷口洋幸准教授(国際人権法)は「自治体が生活者の声を吸い上げて動くことは重要だが、限界がある。日本では、性別や障害といった差別の問題が注目されるたびに個別の立法で対応してきたため動きが遅いが、海外ではあらゆる差別を禁止する包括的な法律の中で、性的指向や性自認も対象にするのが主流。国としてこうした対応も不可欠だ」と指摘する。

(吉野太郎、末崎毅)

子宮移植のサル妊娠

別のサルの子宮を移植したサルを妊娠させることに成功したと、慶応大などのチームが13日、仙台市で開かれた日本産科婦人科学会で発表した。海外では子宮移植を受けた女性の出産例がすでにあるが、国内ではまだ行われていない。チームは、生まれつき子宮のない女性への移植を計画中で、年内にも学内の倫理委員会に臨床研究の許可を申請したいとしている。

同大の木須伊織特任助教(産婦人科)らのチームは、あらかじめ子宮を摘出したカニクイザルのメスに、ほかのメスから取り出した子宮を移植。体外受精した受精卵を移植し、今月3日に妊娠を確認した。順調に進め

慶大など 人間でも臨床研究へ

ば、夏までに生まれる見込みという。

サルの子宮移植は、木須さんらが5年前、いったん取り出した子宮を再び同じサルに戻し、妊娠、出産に成功したと発表。ほかのメスの子宮を移植したサルでの妊娠は初めてという。

チームは、先天的に子宮がないロキタンスキー症候群の女性への子宮移植を目指している。スウェーデンなどですでに実施され、これまでに11人の子どもが生まれたという。

ただ、子宮移植をめぐるのは、出産のために臓器を移植する妥当性や提供者の女性の体にも与える影響など倫理面の課題も指摘されている。(福地慶太郎)

に開設された。コンテンツの「ネットいじめ」が自殺「昨年6月から調査して

インド製中絶薬で出血

厚生労働省は14日、インターネットで個人輸入をして買った経口妊娠中絶薬をのんだ宮城県内の20代の妊婦が膣(ちつ)から多量に出血し、病院に入院したと発表した。女性は回復し、すでに退院したという。厚労省は女性が使ったインド製の中絶薬を、医師の処方なしで個人輸入できない品目に指定。安易な個人輸入をやめるよう呼びかけている。

厚労省によると、中絶薬はインドで製造され、有効成分はミフェプリストンとミソプロストールと表示されていた。これらを含む医薬品は、膣からの多量の出血や重大な細菌感染症などを引き起こす恐れがあるという。

おたふくかぜ「定期接種を」

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)について、17の学会などでつくる予防接種推進専門協議会は14日、ワクチンの定期接種を求める要望書を厚生労働省に提出した。後遺症で難聴になる人もいるため、予防の必要性を訴えている。

ワクチンの定期接種は、法律に基づき行政が費用を出す。おたふくかぜは、はしか(麻疹)と風疹との混合で定期接種されていた時期もあったが、ワクチンによる無